



Care For Us


ケヅメリクガメ (*Centrochelys sulcata*)

動物福祉

動物福祉とは、動物の状態や感情を示します。動物の福祉状態には、ポジティブなもの、ニュートラルなもの、ネガティブなものがあります。

動物の福祉は日々変化する可能性があります。動物のニーズ（栄養面、行動面、健康面、環境面）が満たされていれば、その動物は良い水準の福祉を得ることができます。

飼育下での良い生活とは、動物がその生涯を通じて一貫して良い福祉を経験できることかもしれません。



動物には知覚能力と認知能力があるだけでなく、痛みを感じることを理解すると、ポジティブな福祉を確保するために、すべての飼育動物に適切な飼育環境を提供する必要性が強まります。

飼育下での動物の福祉は、その動物に与えられた環境と、日々のケアや獣医師の治療に左右されます。

したがって、私たちが彼らの行動的および生理学的ニーズを理解することは非常に重要です。そうすれば、私たちは飼育下でそれらのニーズを満たすことができます。

ケヅメリクガメの学名は、ラテン語で「溝」を意味するsulcusに由来し、リクガメのウロコの溝を意味していて、スルカタリクガメと呼ばれることもあります。

サハラ砂漠の南端のサヘル（半乾燥草原、サバンナ、灌木地帯の過渡的な生態系）アフリカ諸国のブルキナファソ、チャド、エリトリア、エチオピア、マリ、モーリタニア、ナイジェリア、セネガル、スーダンに生息しています。

世界のリクガメの中では3番目に大きく、五大陸にいるリクガメの中では最大の種。成体は甲長83cm、体重105kgにもなります。70年以上生きることが知られています。IUCNのレッドリストでは、絶滅危惧種(Endangered)に分類されています。



リクガメには体温調節が必要

リクガメは爬虫類なので、外温性の代謝を持っています。彼らは外部から熱を得て、周囲の環境と熱交換することで体温を調節しています。自然の太陽光が得られない場合は、ヒートランプや床暖房などの熱源を利用しますが、体温を調節するためには、熱を得るだけでなく、熱を逃がすことも必要です。

リクガメの展示場の中には、暖かい場所と冷たい場所がある「温度勾配」や「熱モザイク」を設けるようにしてください。摂氏15度以上のクールスポットと摂氏38度以下のホットスポットを用意し、彼らがいつどの温度に居たいかを選択できるようにします。

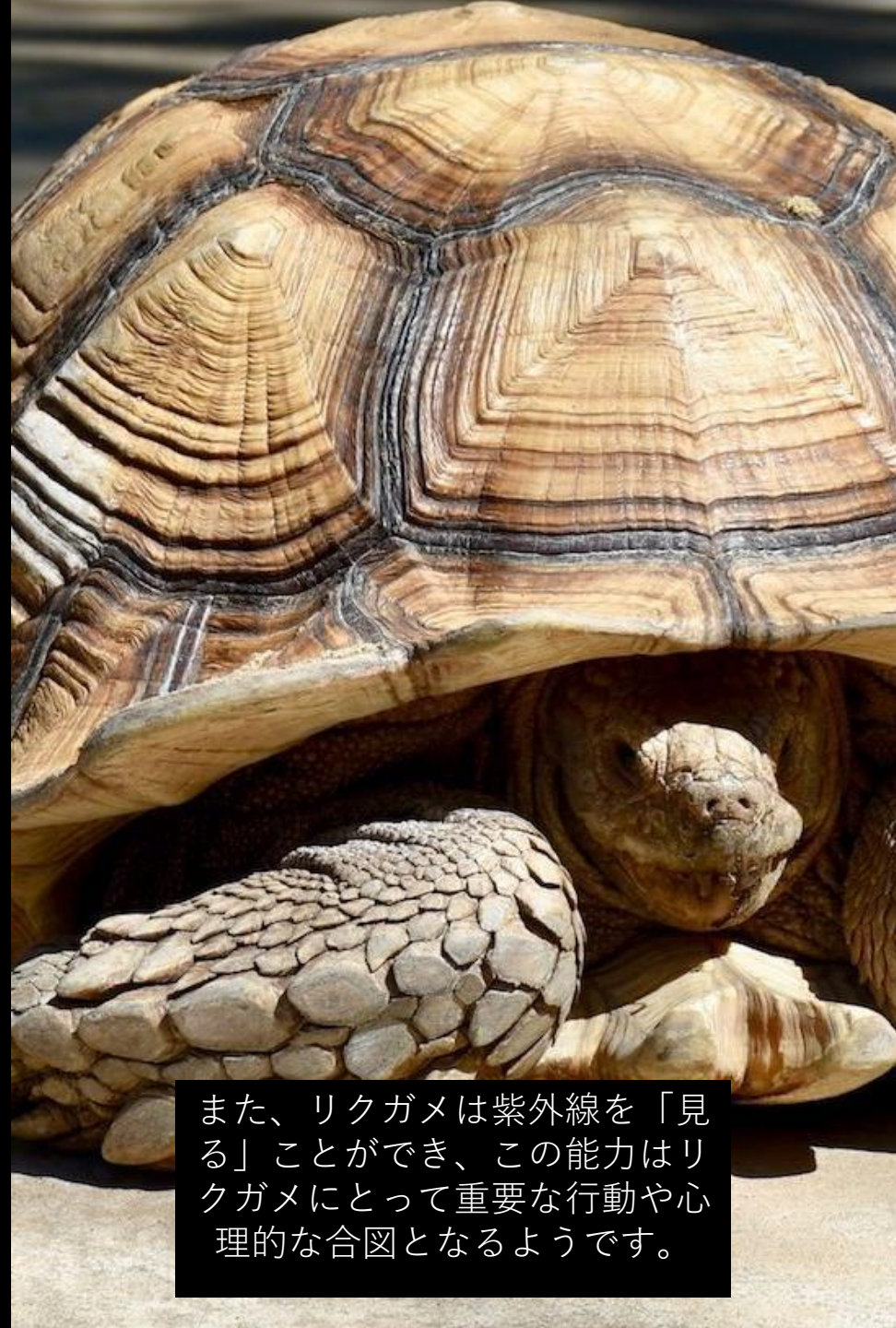
ポジティブな行動を引き出すために

野生のケヅメリクガメは、猛暑から身を守り、脱水症状を防ぐために、3メートルもの長さの巣穴を掘ります。展示場の中には、この巣穴を模したパイプや箱などの構造物を設置し、避難するための行動と、水分を保持するための生理的な必要性を満たすようにします。

リクガメは太陽が 必要

リクガメの健康には、十分な照明が必要です。熱帯や亜熱帯の気候では、ケヅメリクガメは、自然の日光や日陰、避難所がある屋外の広い放飼場で飼育するのが最適です。人工的な光源では、自然の太陽光を完全に再現することはできないので、屋内で飼育する場合は、定期的に自然の太陽光で日光浴させる必要があります。

紫外線(UV)から赤外線までの異なる波長の光は、リクガメの皮膚に非常に特異的な影響を与えます。紫外線帯は免疫系に直接影響を与え、ビタミンD3の生成に関わることでよく知られています。ビタミンD3は腸からのカルシウムとリンの取り込みを制御するために不可欠です。



また、リクガメは紫外線を「見る」ことができ、この能力はリクガメにとって重要な行動や心理的な合図となるようです。



展示場の設計

野生のケヅメリクガメは、非常に複雑で動的な環境で生活しているので、これを飼育下でも再現する必要があります。

自然の植生を利用した展示場が最適で、低めの灌木や茂みを植えて、その下に身を隠せるようにします。岩や丸太などの障害物も重要で、部分的な視覚的障害物として、また通り抜けたり押したりするための障害物として使用します。

刈り取った草や藁などを積み上げて、人工的な巣穴の用意や巣穴を作る機会を提供することは、行動上重要な役割を果たします。

リクガメが簡単に水に浸かることができるように池の側面を浅くし、理想的には泥遊びできる場所を用意します。

ケヅメリクガメにはスペースが必要

この種は成長が早く、15年～20年でフルサイズになります。また、非常に攻撃的で、メス、オスともにお互いに突進する傾向があります。そのため、攻撃性は身体的損傷や急性および慢性的な苦痛を引き起こす可能性があるため、一緒に飼育するリクガメの頭数が重要になります。

野生のリクガメは、ほとんどが単独行動で、かなり広い行動圏を占めており、交尾の時にだけ出会います。飼育下でのリクガメの過密飼育はストレスが大きく、病気や寄生虫の感染の原因になるので、避けるようあらゆる努力を払う必要があります。

ポジティブな行動を引き出すために

複数の大人のオスを、非常に大きな展示場の中で飼育します。理想的な展示場は、広々とした有蹄動物の生息地の中で、自由に行動できる場所です。どのような種類のリクガメであっても、制限されたスペースで多数のリクガメを飼育しないでください。

低木や長い草などの避難場所、岩や丸太、人工的な巣穴、浅い池、泥んこ遊びができる場所など、広くて開放的な場所で、できるだけリクガメにスペースを与えるようにしてください。

リクガメは多様な食事が好き

リクガメは、昆虫、カタツムリ、腐肉など、有機物なら何でも食べます。しかし、彼らは主に草を食べることが好きで、屋外でよく植えられている芝生がある場所で飼われていれば、牧草や広葉の雑草を食べることに満足します。

食事は、ロメイン・レタス、エスカロール、エンダイブ（キクヂシャ）、グリーンリーフ・レタス、ケールなどの色の濃い葉物野菜をたっぷりと食べ、ニンジン、ブロッコリー、ピーマン、カボチャなどの野菜を時々食べ、ウチワサボテンも優れた食材です。リンゴ、洋ナシ、メロン、バナナ、ベリー類（イチゴ、ブラックベリー、ブルーベリーなど）などの果物は、少量を不定期に与えるだけにしましょう。

ポジティブな行動を引き出すために

与える餌の大きさや形を変えることで、バリエーションを増やすことができます。リクガメは自然の草を食べる動物なので、展示場の中の様々な場所で給餌し、植物が生えている場合は、定期的に植物の位置を変えて環境を変化させることで、多様な食事の機会を得ることができます。

稚ガメ・青年期のリクガメ

果物(リンゴ、洋ナシ、メロン、バナナ、イチゴ、ブラックベリー、ブルーベリー)を少量ずつ不定期に与えることは、稚ガメや青年期のリクガメでは特に重要です。

糖分とタンパク質を含む食品は、成長期のリクガメには細心の注意を払って管理しなければなりません。なぜならば、どちらかが多すぎると、甲羅(carapace)の発達が異常になり、治療不可能な奇形であるテンティング(tenting)と呼ばれる状態になるからです。

また、成長期のリクガメは腎不全になりやすいので、水分補給も重要です。水分を十分に補給し、呼吸によって水分が過度に失われないように、常に手の届く場所に水を用意し、地表面の湿度が高い隠れ場所を提供してください。





リクガメの 健康管理

リクガメは他の動物に比べて非常に長生きで、エネルギー資源を節約する能力に長けているため、病気や健康状態が悪化するまでに数ヶ月から数年かかることがあります。

良い健康状態の指標は体重なので、飼育しているリクガメは定期的に体重を測定し、各個体の適切な記録を残しておく必要があります。

リクガメのエンリッチメントのアイデア

餌を充実させることはいつでも歓迎されますが、果物や砂糖の多い餌を与えすぎないように注意してください。餌の大きさや形を変えてバリエーションを増やしたり、餌を積み重ねたり、餌を吊るしたり（高すぎتهはいけません）、リクガメが移動しやすい場所に餌を部分的に隠したりします。リクガメは自然な草を食べる動物なので、さまざまな場所で給餌し、育てている植物で動かしやすいものがあれば、定期的に動かして変化をつけます。

リクガメは泥遊びが好きなので、展示場の中にいつも泥を用意するか、定期的に泥を用意してください。また、温かい水をかけると喜びます。

ポジティブな行動を引き出すために

リクガメは、自然で広々とした、様々な植物や隠れ家、障害物のある場所で飼育され、自然な放浪、放牧、探索行動の発現を促します。展示場の中が過放牧による不毛地帯にならないように監視してください。他のリクガメと同様、ケヅメリクガメは非常に賢いので、オペラント条件付けやターゲットトレーニングにもよく反応します。



リクガメの楽しみ...

広々としたスペースで、
さまざまな食べ物を食べ、
日光浴をすること。

飼育下では、彼らが一生
幸せで健康でいられるよ
うに、自然で正常な行動
を常に再現するようにし
なければなりません。

WILD
WELFARE

